

教材分析シート						第3学年 6月指導教材「まいごのかぎ」					
年間を通して身に付けさせたい読みの力				中心人物の変容を読み取る力							
指導事項		登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り替わりと結び付けて具体的に想像することができる。									
本単元で身に付けさせたい力		登場人物の変化を捉える。感じたことを書く。友達と共有し違いに気付く。									
文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）											
	観点	観点の詳細		解決できること		学習用語		まいごのかぎ			
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件		物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。		設定		パリッとしたシャツのような夏の風がぬける。 学校帰り			
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり		中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。		登場人物		りいこ また、よけいなことをしちゃったな。			
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）		作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。		組み立て 場面 段落		くり返し 4つの鍵穴と出来事が起きている。くり返し 表現があることで、中心人物の心情を比較できる。			
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」		物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけ を読むことができる。		あらすじ		落ち込んでいた「りいこ」が、バスや魚と同じように自分もやりたいことをやってみようと前向きになる話。			
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）		人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。		語り手 会話文・地の文		語り手 りいこに寄り添っている。 会話文 りいこの気持ち・独り言のようにつぶやいている。			
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喻、ダッシュ、オノマトペ、表記		作者の強調したいことが分かる。		句読点		比喻、オノマトペ 擬人法			
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）		複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的になる。		出来事		「なんかとても楽しそう。」 そして、はっと気づいたのです。 初めて不思議な出来事を前向きに捉える。 （考え方の変化）			
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由		作品の主題を捉えることができる。				「みんなも、すきに走ってみたかったんだね。」 （気持ちの変化）			
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い		作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。		題名		まいご（まいごになることを楽しむ。鍵穴を見つけることが答えでない。） かぎ（好奇心・試すこと）			
10	主題	自分の経験と比べながら読む。		作者が物語の中で伝えたいことは何か。		作者		まいごになりながら、鍵を探しながら、迷子になることだって楽しんでいい。			
教材の特徴		ファンタジー構造（入口と出口がある） くり返しの表現（4つの不思議な出来事の繰り返し・うさぎが初めと終わりの場面に登場する） 「人物像」「中心人物の変容」「心情の変化のきっかけ」を捉えやすい。									

教材分析シート		第 1 学年 9 月指導教材「くじらぐも」			
年間を通して身に付けさせたい読みの力		場面の様子のだいたいをとらえる力			
指導事項		エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。			
本単元で身に付けさせたい力		会話文「」 登場人物の様子や気持ちを想像して会話文を工夫して音読することで、場面の様子や登場人物の気持ちをろらえること。			
文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）					
		観点の詳細	解決できること	学習用語	くじらぐも
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件	物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。		4 時間目の体育の時間 校庭に大きなくじらがあらわれる
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。	人物	
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。	場面 段落	
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」	物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけを 読むことができる。		子どもたちが、大きなくじらぐもに力を合わせてのって、空を冒険する話。
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。	会話文	
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喻、ダッシュ、オノマトペ、表記	作者の強調したいことが分かる。	句読点	「」 会話文が多く使われている。 くり返し（かけ合い、かけ声）
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的に なる。		
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	作品の主題を捉えることができる。		
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い	作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	題名	くじら…みんなが乗れる位の大きさと、小さな一年生の対比 子どもの好きなキャラクター くも…空に浮かんでいる、身近で興味をもちやすい。ふわふわなど想像しやすい。
10	主題	自分の経験と比べながら読む。	作者が物語の中で伝えたいことは何か。	作者 訳者	
教材の特徴		ファンタジー構造（入り口と出口がある） くり返しの表現（子どもたちのまねっこをするくじら、「天までとどけ、一、二、三。」と、何度もくり返しチャレンジする子どもたち。			

教材分析シート 第2学年 9月指導教材「お手紙」

年間を通して身に付けさせたい読みの力	中心人物の変容を読み取る力
--------------------	---------------

指導事項	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。
------	--------------------------------

本単元で身に付けさせたい力	くり返しや対比から登場人物の変容を捉える。 音読劇で表現する。
---------------	------------------------------------

文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）

	観点	観点の詳細	解決できること	学習用語	お手紙
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件	物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。		
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。	登場人物	がまくん「とてもふしあわせな気もちになる んだよ。」→友だちの優しさに触れて変わった かえるくん かたつむりくん
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。	組み立て 場面 段落	
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」	物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけ を読むことができる。	あらすじ	お手紙がなくてふしあわせな気もちだったがまくんが、かえるくんにお手紙を書いてもらったことによって、とてもしあわせな気もちになった話。
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。	語り手 会話文	
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喻、ダッシュ、オノマトペ、表記	作者の強調したいことが分かる。	句読点	くり返し 対比
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的に なる。	出来事	がまくんが気づいたところ かえるくんがお手紙を書いたところ
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	作品の主題を捉えることができる。		二つの「ああ」の読み取り
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い	作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	題名	お手紙
10	主題	自分の経験と比べながら読む。	作者が物語の中で伝えたいことは何か。	作者	気もちを共有すること 親友とは何か。

教材の特徴	会話中心で展開されていく くり返しの表現「かたつむりくんは、まだやってきません。」 対比 がまくんとかえるくんの変容を捉えていく
-------	---

教材分析シート 第3学年 9月指導教材「ちいちゃんのかげおくり」

年間を通して身に付けさせたい読みの力	
--------------------	--

指導事項	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。
------	-------------------------------

本単元で身に付けさせたい力	
---------------	--

文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）

	観点	観点の詳細	解決できること	学習用語	ちいちゃんのかげおくり
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件	物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。	設定	戦争中と戦後 夏のはじめのある夜 夏のはじめのある朝
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。	登場人物	ちいちゃん お母さん、お父さん、お兄ちゃん かげおくり
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。	組み立て 場面 段落	空の変化 青い空→広い空は楽しい所からこわい所へ 戦時中と戦後（なぜ、戦後が描かれているのか）
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」	物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけを読むことができる。	あらすじ	ちいちゃんがおそろしい戦争によって、家族とはなればなれになったけど、かげおくりによって、家族と花ばたけで出会えた話。
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。	語り手 会話文・地の文	語り手からの視点（悲しい。かわいそう） ちいちゃんからの視点（楽しい） 読者の思い込みの読みとちいちゃんの視点からの読みを比べる
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喻、ダッシュ、オノマトペ、表記	作者の強調したいことが分かる。	句読点	空の叙述 体言止め
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的になる。	出来事	ちいちゃんのひとりぼっちのかげおくり
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	作品の主題を捉えることができる。		1の場面と4の場面を比べる 家族でするかげおくりとひとりぼっちのかげおくり
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い	作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	題名	ちいちゃんのかげおくり→「の」がついているのはなぜか。 かげおくり=楽しいこと
10	主題	自分の経験と比べながら読む。	作者が物語の中で伝えたいことは何か。	作者	ちいちゃんぐらいの女の子がいた。今もいる。

教材の特徴	読者からの視点だけで読むと、主題をかんちがいをしやすい物語。
-------	--------------------------------

教材分析シート 第4学年 9月指導教材「ごんぎつね」

年間を通して身に付けさせたい読みの力	
--------------------	--

指導事項	文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
------	---

本単元で身に付けさせたい力	
---------------	--

文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）

	観点	観点の詳細	解決できること	学習用語	ごんぎつね
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件	物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。	設定	
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。	登場人物	兵十に気づいてほしい。（ごん）
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。	組み立て 場面 段落 対比	6 場面
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」	物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけを読むことができる。	あらすじ	ごんが
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。	語り手 会話文・ 地の文	
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ、表記	作者の強調したいことが分かる。	句読点 情景	ごんの心内語（動物だから）
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的になる。	出来事	兵十のおっかの死
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	作品の主題を捉えることができる。		「ごん、おまいだったのか。いつもくりをくれたのは。」
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い	作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	題名	
10	主題	自分の経験と比べながら読む。	作者が物語の中で伝えたいことは何か。	作者	兵十に気づいてもらえてうれしい。

教材の特徴	
-------	--

教材分析シート 第5学年 9月指導教材「たずねびと」

年間を通して身に付けさせたい読みの力	描写を基に、登場人物の心情を捉える力
--------------------	--------------------

指導事項	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。 カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。
------	--

本単元で身に付けさせたい力	行動や情景、心情を表す言葉に着目し、登場人物の心情の変化や物語の全体像を捉える。 感じたことや考えたことを共有し、違いに気づく。
---------------	---

文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）

	観点	観点の詳細	解決できること	学習用語	たずねびと
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件	物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。	設定	学校帰り、駅 ポスターのちょうど真ん中にわたしの名前を見つけた。
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。	登場人物 人物像	中心人物：あや 登場人物：お兄ちゃん、お母さん、おばあさん
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。	組み立て 場面 段落 構成	8 場面
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。 一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」	物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけ を読むことができる。	あらすじ	
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。	語り手 会話文・地の文 視点	
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喩、ダッシュ、オノマトペ、表記	作者の強調したいことが分かる。	句読点 情景 擬音語 擬態語 倒置・対句	
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的に なる。	出来事	おばあさんとの出会い
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	作品の主題を捉えることができる。	山場	名前でしかなかった人々が、過去に生きていた人とつながった時
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い	作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	題名	
10	主題	自分の経験と比べながら読む。	作者が物語の中で伝えたいことは何か。	作者	

教材の特徴	
-------	--

教材分析シート 第6学年 9月指導教材「やまなし」

年間を通して身に付けさせたい読みの力	
--------------------	--

指導事項	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。
------	---------------------------------

本単元で身に付けさせたい力	
---------------	--

文学教材を読むための10の観点（太枠は重点指導事項）

	観点	観点の詳細	解決できること	学習用語	やまなし
1	設定	時、場所、時代、人物の状況、話のきっかけ 出来事、事件	物語全体の様子をつかむ。 人物像を明らかにする。	設定	小さな谷川の底 二枚の青い幻灯
2	人物	中心人物（大きく変容する人物） 登場人物（人物同士の関係） 人物像 こだわり	中心人物のこだわりに着目することで、作品の主題に せまることができる。	登場人物 人物像	五月→十二月 かへの親子 かわせみ⇄やまなし
3	構成	作品を大きく分ける。人物の行動で分けられる。 場面（いくつかのまとまり）	作品を丸ごと読める。 対比構造が見える。 人物の変容や山場が見える。	組み立て 場面 段落 構成	五月と十二月（対比）
4	あらすじ	話の大体をとらえてまとまる。一文で書く。「〇〇が△△によって～した話。」	物語の事件や出来事をつなぐことで、変容やきっかけを読むことができる。	あらすじ	
5	視点	語り手（物語の地の文を語る人） 会話文・地の文 視点（語り手がどこからその作品を見て語っているか）	人物の心情や様子を客観的に捉えることができる。 クライマックスを明らかにする。	語り手 会話文・地の文 視点	
6	表現技法	句読点、「」、心内語、比喻、ダッシュ、オノマトペ、表記	作者の強調したいことが分かる。	句読点 情景 擬音語 擬態語 倒置・対句	比喻 オノマトペ 擬人法
7	きっかけ	中心人物の変容点。 出来事（事件）	複数の叙述を結び付けて読むことで変容点を捉える。 人物の性格も具体的になる。	出来事	
8	変容	山場：中心人物のものの見方考え方が大きく変わるところ 中心人物の気持ちが変わった理由	作品の主題を捉えることができる。	山場	「二ひきはまるで声も出ず、居すくまってしまいました。」（初めて恐怖を知る） 「おいしそうだね。お父さん。」（自然の豊かさ、恵みを知る）
9	題名	題名が何を表しているのか。作者の想い	作品の主題との関わりを考える手掛かりとなる。	題名	やまなし（十二月の出来事を作者が伝えたかった） 五月と十二月を対比することにより、（自然の恵みを知ること）を強調している。
10	主題	自分の経験と比べながら読む。	作者が物語の中で伝えたいことは何か。	作者	自然界での命のつながり

教材の特徴	
-------	--